

日本精神保健社会学会

平成 28 年 6 月 15 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1 - 1

帝京大学宇都宮キャンパス

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

滝澤武研究室内

TEL&FAX 028-627-7188

ニュースレター第 57 号

発行人：宗像恒次

編集人：上田敏子、窪田辰政

第 22 回日本精神保健社会学会学術大会に向けて

大会テーマ「愛着を再び紡ぐ社会」

第 22 回学術大会実行委員長

殿山 希（筑波技術大学保健科学部保健学科）



いつ頃だったでしょう、羽田空港で飛行機を降りたら、携帯を出して、迷惑なくらい、あっちでもこっちでも「着いたよ」「着いたよ」と話し出す。皆、大切な人とつながっているのだな、世の中そう捨てたものでもないなと感じたものです。しかし、この頃は、飛行機を降りても静か。皆、無言でスマホを覗いています。忙しい相手を思ってメールで到着を知らせているのかもしれませんが、それでは、安否確認も一

方通行、何となく人間関係の希薄さを感じたことを思い出します。おまけに、スマホと向き合い、誰も周りの人を見ていないのも気になりました。

最近、愛着に関連した問題が社会に多く存在します。こどもへの暴力、誘拐、ストーカー、また、パワハラに至るまで、愛着の裏返しと考えられる場合が多いと思います。人と人が向き合えなくなっていることが問題の発端ではないでしょうか。人は、なぜ、**face to face** で向き合えなくなってしまったのでしょうか。

そんな社会の原因・背景に迫るべく、第 22 回日本精神保健社会学会学術大会のテーマを「愛着を再び紡ぐ社会」と致しました。シンポジウムでは、現代社会が抱える愛着をめぐる問題の解決に挑む三人のシンポジストに問題提起をお願いしました。

そして、本学会学術大会の主役は、一般演題とシンポジウムのディスカッションであります。ぜひ、会員の皆様には、日頃の活動・教育・臨床・研究の成果を一演題でも多くご発表いただき、社会におけるメンタルヘルスの向上に寄与していただければ幸いです。多くの会員の皆様のご参加と活気あるディスカッションを心よりお待ちしております。

また例年、大会に合わせて企画していた研修セミナーを本年は 9 月 17～18 日に石和温泉にて設定しました。日頃のストレス解消を図りつつ、大会に向けての予習・会員同志の交流の場として、こちらでもお会いできることを楽しみにしております。

第 22 回日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第 1 報）

●開催日：平成 28 年 11 月 23 日（水）祝日

●会場：筑波大学東京キャンパス

●大会テーマ：「愛着を再び紡ぐ社会」

第 1 部 ポスター発表

第 2 部 シンポジウム

○わかれた夫婦の子育てパートナーシップ

清水 知行氏 柚葉 美輝氏

私は柚葉美輝と結婚し子を授かりましたが、離婚しました。それは、私の度重なる不注意な発言の結果でした。離婚が現実味を帯び、子供の不安定な未来に心配を募らせましたが、『このままでは、幸せになって欲しい子供の養育に支障をきたす』と気付いた瞬間から『子供の為に』をスローガンに、私は言動や感情をコントロールし、美輝との会話に集中しました。そして、そのことが、恋愛的な愛情ではなく、博愛を生み出し、共に養育していく関係となりました。私は、この博愛が、愛着を再び紡ぐキーポイントになると考えています。

○里子とどのように愛着を紡いでいくか

能登 和子氏

（特定非営利活動法人 東京養育家庭の会 副理事長 東京都調布市民生児童委員）

短大卒業後 38 年間、児童養護施設にて、児童相談所から措置され入所してきた子どもたちの児童養護に携わってきました。また、退職後は、養育家庭となり、これまで 3 人の里子を養育してきました。実親がさまざまな事情で養育困難におちいり、お預かりした里子と愛着を紡いでいこうとするプロセスには、想像を絶する出来事が次から次へと出てきます。こうした実践の中で学んで得てきた愛着の形成に関するさまざまなこと、その一端をお伝えできればと思います。

○コンパニオン・アニマルの問題行動から知る愛着の歪み

～動物の声を聞くアニマル・コミュニケーターの実践より～

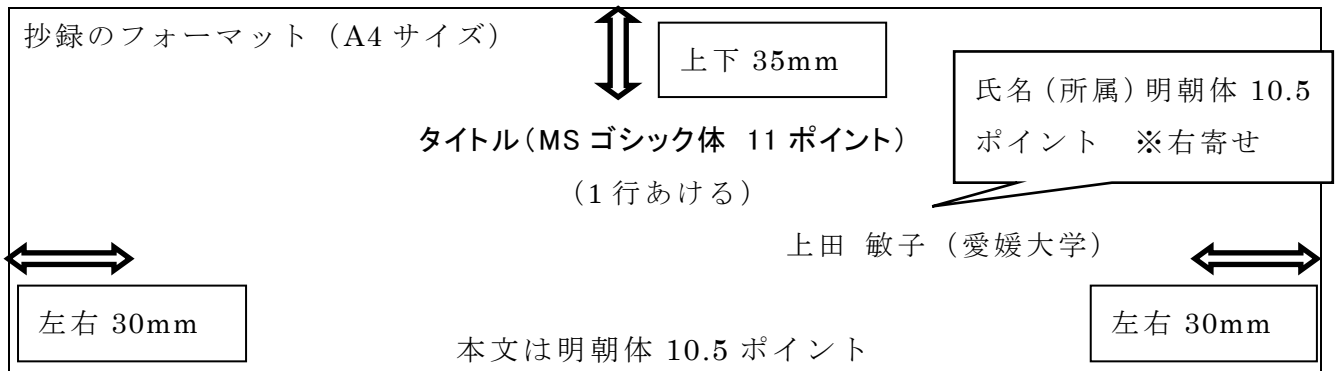
宮本 真奈美氏（日本ヒーリングサポート協会 アニマルコミュニケーター）

ペットは家族の一員として暮らしていますが、擬人化され飼い主と共依存になるケースがみられます。癒やしを求め動物を飼っても自動的に愛着の再構築にはならず、むしろ動物の問題行動で日常生活が破綻することもあります。しかしこの問題行動は飼い主の抱える問題を映しています。動物を通して見える、飼い主の愛着の問題と介入について皆さんと考えたいと思います。

司会進行 宗像 恒次（情動認知行動療法研究所 筑波大学名誉教授）

★ポスター発表の演題募集★

発表希望者は演題名を **9月23日(金)**までに事務局へお申込みください（FAX または郵送にて）。抄録については、**10月21日(金)**までに事務局まで提出してください。抄録については、下記のフォーマットに沿って作成してください。ポスター発表のスペースは、90cm×180cm（A4用紙で20枚程度貼れるスペース）を予定しています。



機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.22」の原稿締切のお知らせ

「メンタルヘルスの社会学 Vol.22」の原稿締切日は**7月11日(月)**です。年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック（専門校閲）を必ず受けるようお願いします。多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

宿泊研修会のご案内

今年度は、宿泊研修会を企画しました。本学会の主旨「共感しあうメンタルヘルス」について、温泉地でこころと身体の癒しとともに「本音で語り合える仲間づくり」を目指して、共に考え、学びあい、交流を深めたいと思います。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております（詳細は、別紙をご参照ください）。

日 時：平成 28 年 9 月 17 日（土）～18 日（土）（現地集合 現地解散）
場 所：ホテルやまなみ（山梨県市町村職員共済組合保養所）
参 加 費：26,000 円/人（個室 一泊二食付 飲み放題プラン）研修室貸料金込
申込締切日：**7月24日(日)**（先着順）

宿泊研修会実行委員 山本・谷口

会費納入のお願い

本学会の活動は会員の皆様の会費によって支えられております。つきましては、会費の納入がまだ済まれていない方は、速やかにご納入をいただきますよう、お願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5000 円 学生会員 3000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6- 613036

平成 28 年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

「学会奨励賞」の希望者は事務局へお問い合わせください。選考基準を充たしているようでしたら必要書類を作成し、9 月末日までに事務局必着にてご応募ください。

理事たちの現場 Vol.14

<仕事と研究>

谷口 清弥（四條畷学園大学看護学部）

私の所属である四條畷学園は、幼稚園から小中高、大学までの教育課程を備えた総合学園です。同じ敷地の中に、幼稚園児と大学生が共に学ぶというのは、全国でも例がないようで、子どもと接する経験の少ない大学生が、看護を学ぶ上でとてもいい環境です。

その中で、私が専門とするのは「精神看護学」です。精神健康の保持・増進、疾病予防と疾病からの回復に向けた看護を教育しています。精神の状態や病気は目に見えないため、学生にイメージしてもらうためには、かなり工夫が必要です。視聴覚教材や体験者の手記などを活用しながら奮闘しています。また、看護学部では、長期にわたる病院実習があるのですが、精神看護の実習で大事にしていることは、‘精神を病む人との関わりを通して、対象をかけがえの無い 1 人の人として受容する過程を経験する’ことです。尊重されるという体験や本当に理解し受け止めてもらえた安心感が自己肯定感を高め、その人の様々な力を発揮させるということを実感します。その過程で、学生は自分と向き合うことも多く、このような経験を通して、成長していく姿を見られることが私のこの上ない喜びです。宗像先生の下でカウンセリングを学び実践してきた経験が、教育の場でも活かしていると思います。また、スキルと実践感覚を維持するために現在も心療内科でカウンセリングは続けています。

このように、看護と教育、カウンセリングに携わってきた経験から、私の関心事は‘人の成長を支援する’ということです。これまで、人のポジティブな面に着目し、回復力や成長心を引き出す援助を研究テーマとし、「看護師のレジリエンス」や「メンタルヘルス不調患者のセルフマネジメント」に関する研究を行ってきました。私達の日常生活においては、対人関係や生活上のトラブルなど身近に起こり得る出

来事から、予期しないような事故や災害、深刻な健康問題など重大な出来事まで存在します。ネガティブな感情に支配されることなく、困難な状況や失敗から学び、成長し、リスクを怖れずに新たな挑戦をする。これらの底力になるのがレジリエンスなのです。

‘人の成長を支援する’ことを通して‘自分自身が成長していきたい’との思いから、今後も、誰もが持つレジリエンスを高め、発揮できるよう日頃の教育においても、学生の強みを引き出す主体的な学習を支援していきたいと考えています。

研究トピックス Vol.1

最近の子どもたちは外で遊んでいない？

遊び場の環境による幼少期の子どもの身体活動量への影響

小野 紗夏¹⁾、窪田 辰政¹⁾ (¹⁾ 静岡県立大学)

日本の子どもの運動能力は低下し、身体活動量も減少している。これが近年の子どもの運動に関する現状である（文部科学省，2006）。子どもたちの運動能力向上のために活動量を増やしやすくするような環境づくりが必要不可欠だ。

そこで現在、園庭環境が及ぼす子どもの活動量の影響に注目が集まっている。園庭は子どもたちの日々の身体活動を培う重要な場所であり、複数の研究でそれを広くしたり、土と芝生での違いを比べたり、遊具を設置したりして子どもたちの行動や遊び方の変化を観察した。結果として、Packer（1994）や、Hannon ら（2008）、Boldermann ら（2006）によると、園庭を広くしたり、遊具を設置したりした方が子どもたちの遊び方に幅が広がり、社会性が増すことがわかった。また、中島ら（2012）によれば、芝生の園庭では土の園庭よりも子どもたちの身体活動量が増えることも判明した。芝生の方が幼児の活動量が増加するのである。特に女兒の芝生での活動量は土でのそれを大きく上回る結果となった。

筆者も幼少期に外国で芝生の園庭を利用していた経験があるが、土と比べると芝生では体の動かし方のバリエーションを増やしやすいたことが理由として挙げられる。特に女兒は泥遊びを敬遠する子が少なからず存在するのも事実だ。芝生であれば痛みや汚れへの不安を減らし、動植物とのふれあいを増やし、活動量が自然と増すのである。また、地球温暖化等の環境問題の改善や、子どもの活動の安全性の向上の見込みが十分にあることから、芝生化への理解も深まるだろう。これは、芝生の園庭を拡大する上で重要な一歩である。

冒頭でも述べたが、園庭は子どもたちにとって、日々の身体活動の源となる場所である。その園庭をよりよい場所とすることは現代の子どもの身体活動量を増加させる重要な糸口をつかむことになるだろう。また、遊び方の幅を広げていくことは、子どもたちの情緒や知覚を刺激し、身体活動量の増加だけでなく、感性に豊かさをもたらすと考察する。国全体での早急な遊び場の改良と、さらなる研究が望まれる。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL. 028-627-7188 FAX. 028-627-7188

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ FAX、または郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属先・自宅 を希望する
所属先名 及び住所	〒 TEL. FAX.		
自宅住所	〒 TEL. FAX.		
所 属 系 (○印で)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・ 体育学・地理学・行政学・政治学・その他()		
関心領域			